



投資環境

2024 年 7 月 10 日

日本株、史上最高値を連日更新

□ 日経平均株価は再び史上最高値を更新、TOPIX も史上最高値に

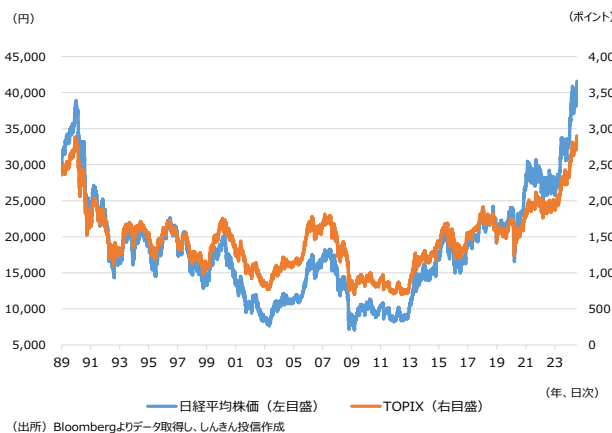
7月4日に日経平均株価、TOPIX とともに史上最高値を更新し、その後も、最高値の更新が続いています。日経平均株価は、約3か月ぶり、TOPIX はバブル期の高値を34年ぶりに更新しました(図表1)。主な要因としては、以下の3点が挙げられます。

第一に、円安の進行です。ドル円は161円台と34年ぶりの水準に上昇しています(図表2)。円安が進行すると、ドルベースの日本株が安くなることから、海外投資家には日本株が割安と感じられ、海外投資家の資金流入が増えたとみられます。

第二に、米国株の上昇です。7月9日に、S&P500 指数とナスダック総合指数は史上最高値を更新しました(図表3)。とくに、テスラをはじめとする主要テクノロジー株が牽引しています(図表4)。

第三に、良好な需給です。新しい少額投資非課税制度(NISA)を活用した個人投資家の買いや事業法人による自社株買いが増えています。また、海外投資家が6週間ぶりに日本株の買い越しに転じたことも好材料です。

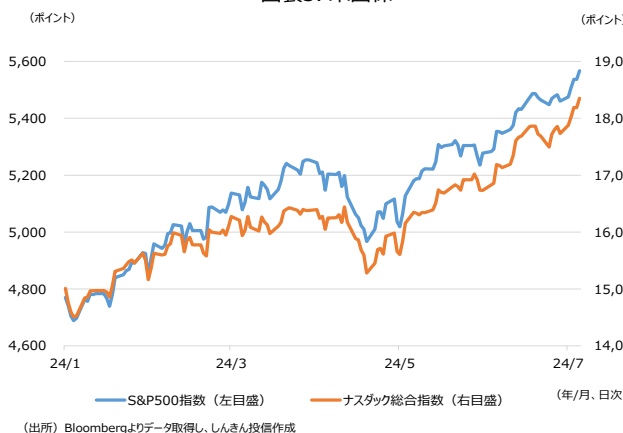
図表1. 日本株



図表2. ドル円



図表3. 米国株



図表4. テスラの株価



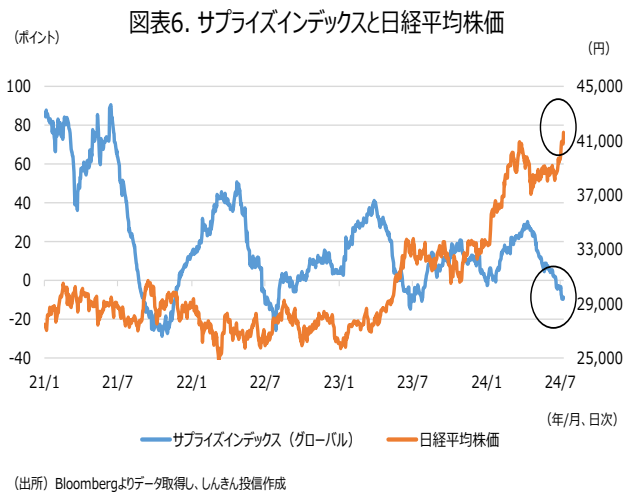
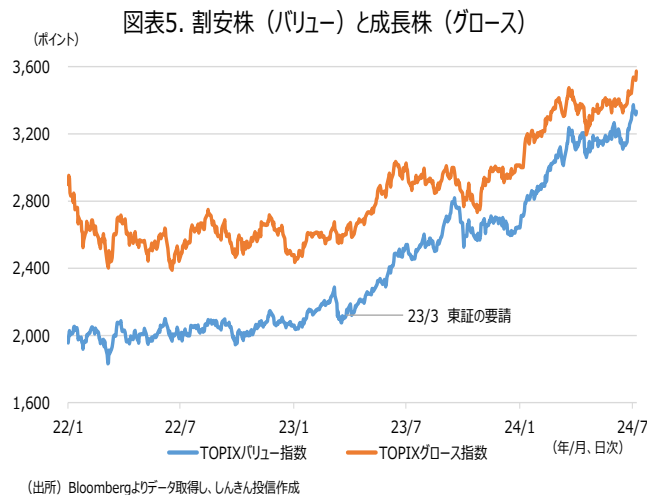


しんきんアセットマネジメント投信株式会社 金融商品取引業者 関東財務局長(金商) 第338号
 Shinkin Asset Management Co., Ltd. 加入協会／一般社団法人投資信託協会 一般社団法人日本投資顧問業協会
 〒104-0031 東京都中央区京橋3丁目8番1号 URL : [https:// www.skam.co.jp](https://www.skam.co.jp)

□ 今後の動きは

今後も、海外投資家の資金流入の増加などが牽引し、底堅い展開が予想されます。とくに、割安株については、2023 年 3 月に東証が資産価格と比べて株価が低迷している企業などに対して、資本コストや株価を意識した経営を要請したことを受けて、堅調な動きが継続することが期待されます(図表 5)。加えて、東証が発表した「2023 年度株式分布状況調査の調査結果について」によると、2023 年度の個人株主数(上場企業の株主数を単純に足した延べ人数)が過去最高を更新するなど、個人投資家の裾野に広がりが見えることも株価を押し上げる材料となりそうです。

ただ、最近の経済指標に弱い動きがみられることには注意が必要です。経済指標が市場予想を上回ったか、下回ったかを示すサプライズインデックスは下落傾向にあります(図表 6)。経済指標の軟化に、今後市場の注目が集まると、株価は調整する可能性もあり警戒が必要です。



(ストラテジスト 澤村一樹)



しんきんアセットマネジメント投信株式会社 金融商品取引業者 関東財務局長(金商) 第338号
Shinkin Asset Management Co., Ltd. 加入協会／一般社団法人投資信託協会 一般社団法人日本投資顧問業協会
〒104-0031 東京都中央区京橋3丁目8番1号 URL : [https:// www.skam.co.jp](https://www.skam.co.jp)

＜本資料に関してご留意していただきたい事項＞

- ※本資料は、ご投資家の皆様に投資判断の参考となる情報の提供を目的として、しんきんアセットマネジメント投信株式会社が作成した資料であり、金融商品取引法に基づく開示資料ではありません。
- ※本資料は、信頼できると考えられる情報源から作成しておりますが、当社はその正確性、完全性を保証するものではありません。また、いかなるデータも過去のものであり、将来の投資成果を保証・示唆するものではありません。
- ※本資料の内容は、当社の見解を示しているに過ぎず、将来の投資成果を保証・示唆するものではありません。記載内容は作成時点のものであり、予告なく変更する場合があります。
- ※投資信託は、預金や保険契約とは異なり、預金保険機構・保険契約者保護機構の補償の対象ではありません。また、登録金融機関でご購入いただいた投資信託は、投資者保護基金の対象ではありません。
- ※投資信託は、値動きのある有価証券等(外貨建資産には為替リスクもあります)に投資しますので、基準価額は変動します。したがって、預金と異なり投資元本が保証されているものではありません。運用による損益は全て投資者の皆様に帰属します。
- ※特定ファンドの取得のお申込みに当たっては、販売会社より当該ファンドの投資信託説明書(交付目論見書)をあらかじめ又は同時にお渡しいたしますので、必ず内容をご確認の上、ご自身でご判断ください。

【お申込みに際しての留意事項】

■投資信託に係るリスクについて

投資信託は、株式や債券等の値動きのある有価証券等(外貨建資産には為替リスクもあります)に投資しますので、基準価額は変動します。したがって、預金と異なり投資元本が保証されているものではありません。運用による損益は全て投資者の皆様に帰属します。

また、投資信託は、個別の投資信託ごとに投資対象資産の種類や投資制限、取引市場、投資対象国等が異なることから、リスクの内容や性質が異なりますので、ご投資に当たっては投資信託説明書(交付目論見書)や契約締結前交付書面をよくご覧ください。

■投資信託に係る費用について

(お客様に直接ご負担いただく費用)

- ◆ ご購入時の費用・・・購入時手数料 **上限 3.3%(税抜 3.0%)**
- ◆ ご換金時の費用・・・信託財産留保額 **上限 0.3%**

(保有期間中に間接的にご負担いただく費用)

- ◆ 運用管理費用(信託報酬)・・・純資産総額に対して、**上限年率 1.628%(税抜年率 1.48%)**
- ◆ その他の費用・・・監査費用、信託財産に関する租税、信託事務の処理に要する諸費用、有価証券売買時の売買手数料等および外貨建資産の保管等に要する費用は、ファンドより実費として間接的にご負担いただきます。また、投資信託証券を組み入れる場合には、お客様が間接的に支払う費用として、当該ファンドの資産から支払われる運用管理費用、投資資産の取引費用等が発生します。これらの費用につきましては、運用状況等により変動するものであり、事前に料率、上限額等を示すことができません。投資信託に係る上記費用(手数料等)の合計額については、ご投資家の皆様がファンドを保有される期間等に応じて異なりますので、表示することができません。

《ご注意》

上記に記載しているリスクや費用につきましては、一般的な投資信託を想定しております。費用の料率につきましては、しんきんアセットマネジメント投信が運用する全ての投資信託のうち、ご負担いただくそれぞれの費用における最高の料率を記載しております。投資信託に係るリスクや費用は、それぞれの投資信託により異なりますので、ご投資される際には、事前に投資信託説明書(交付目論見書)や契約締結前交付書面をよくお読みください。

※本資料で使用している各指数に関する著作権等の知的財産権、その他一切の権利はそれぞれの指数の開発元もしくは公表元に帰属します。